

令和3年11月25日（木）公開

埼玉県立図書館 海外資料担当

「にほんごをまなぶ」資料について

0. はじめに

図書館における多文化サービスとは、通常のサービスや資料を利用できない、あるいは利用しにくい文化的・言語的少数者の知る権利や学ぶ権利を、資料や情報の提供によって保障するサービスのことです。

埼玉県でも在住外国人数は年々増加傾向にあり、図書館の多文化サービスを充実させることがより重要になってきています。特に、日本語を母語としない方は、日本語が理解できないがために、情報にアクセスできなかったり、不自由を経験したりすることが多くあるため、図書館が積極的に支援し、情報や学びの場を提供することがとても大切です。

そこで、今回の講座では、日本語を母語としない方々の図書館に対する最も基本的な学習ニーズである、「にほんごをまなぶ」資料（日本語学習教材）の揃え方を県立図書館の事例も交えてご紹介いたします。

1. 在住外国人の日本語学習をめぐる埼玉県の現状

埼玉県の外国人についての統計を確認すると、埼玉県内在住の外国人数は増加傾向にあり、日本語学習へのニーズも高いことが見えてきます。

また、平成13年に文化庁が実施した「日本語に対する在住外国人の意識に関する実態調査」を見ると、図書館を利用している外国人の方が決して少なくないことが分かります。このような状況を鑑み、埼玉県立熊谷図書館では「にほんごをまなぶ」コーナーを設置し、幅広いレベルや内容の日本語学習教材を16言語で提供しています。

(1) 埼玉県の在留外国人数

「埼玉県内の在留外国人数（令和2年12月末現在）について」

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/keikakutoukei/r2-12toukei.html> 埼玉県)

- ・県内の在留外国人数は令和2年12月末現在で19万8,235人。
- ・その数は毎年増加傾向にある。
- ・在留外国人の多い上位5国は中国、ベトナム、フィリピン、韓国、ブラジル。
- ・埼玉県の在留外国人数は全国5位。

(2) 令和3年度埼玉県外国人住民意識調査

「令和3年度埼玉県外国人住民意識調査」

(https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/5967/r3surveyreport_1.pdf 埼玉県)

○質問2：日本語のレベル

「ゆっくりで短い会話ができる」と回答した人が57.8%と最も多く、次いで「自然な速さの会話ができる」が38.4%となっている。また、「できない」と答えた人は3.8%だった。

○質問5：外国人住民が暮らしやすい地域にするために何が必要だと思いますか。

「行政窓口での外国語による相談・通訳体制の充実」と回答した人が57.7%と最も多く、次いで「外国人住民が日本語や日本文化を学ぶ機会の充実」が51.0%となっている。

○質問6：外国人住民が暮らしやすい地域にするために、日本人住民に何を望みますか。

「外国の文化、生活習慣を理解するように努める」と回答した人が51.4%と最も多く、次いで「日本語、日本の習慣を外国人住民に紹介する」が39.8%となっている。

○質問7：外国人住民が暮らしやすい地域にするために、自分自身が何をしたいと思いますか。

「日本の文化、生活習慣を理解するように努める」と回答した人が62.6%と一番多く、次いで「日本語を習得するように努める」が45.3%となっている。

⇒県内在住の外国人の方の日本語学習へのニーズが高いことが分かる。

(3) 日本語学習に関する調査

・「令和3年度外国人住民の日本語学習に関する調査」

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/tabunkakyousei/nihongo.html> 埼玉県)

問2 国籍別学習者数 総数 3,739人（学習者数の多い上位5国は中国、ベトナム、フィリピン、韓国、ブラジル。

・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成30年度）」

(https://www.mext.go.jp/content/20200110_mxt-kyousei01-1421569_00001_02.pdf

文部科学省)

p14「日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）」

埼玉県は計2245人586校で全国6位。

p18「日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の母語別在籍状況（都道府県別）」

埼玉県は中国語887人、フィリピン語374人、ポルトガル語156人、スペイン語140人、ベトナム語128人、英語81人、韓国・朝鮮語22人、その他457人。

(4) なぜ図書館で日本語学習教材を提供すべきなのか

・「ユネスコ公共図書館宣言 1994年」

(<http://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/237/Default.aspx> 日本図書館協会)

「公共図書館のサービスは、年齢、人種、性別、宗教、国籍、言語、あるいは社会的身分を問わず、すべての人が平等に利用できるという原則に基づいて提供される。理由は何であれ、通常のサービスや資料の利用ができない人々、たとえば言語上の少数グループ（マイノリティ）、障害者、あるいは入院患者や受刑者に対しては、特別なサービスと資料が提供されなければならない。」とあり。

- ・「日本語に対する在住外国人の意識に関する実態調査（平成13年）」

(https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokoyoiku_jittai/zaiju_gaikokujin.html 文化庁)

5 (1)「文化施設・公共施設の利用状況 一図書館が最多(6割弱)一」

調査対象である全国12地域の日本語教室に通っている16歳以上の男女(在住外国人)600人のうち56.3%が、地域で生活をしている中で利用したことのある施設について図書館と回答している。

(5) 埼玉県立図書館の「にほんごをまなぶ」資料

- ・埼玉県に暮らし、働き、子供を育てる方の生活に必要な日本語学習を支援するため、「にほんごをまなぶ」コーナーをつくり、資料リストをウェブサイトで公開している。
- ・テキストの言語は、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、英語、ポルトガル語、タイ語、マライ語、タガログ語、インドネシア語、ビルマ語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、日本語、の16言語。
- ・多様な学習ニーズにこたえるため、各言語で幅広いレベルや内容の資料を揃えるようにしている。

2. 「にほんごをまなぶ」資料を揃える前に

日本語学習教材にはレベルや技能、対象別に様々な資料が存在します。日本語学習教材の選定を行う前に、まず地域の外国人住民をめぐる状況を調査し、どのような内容の教材を買うのか、方針を策定する必要があります。また、それぞれの選定ツールの長所や短所を理解し、方針や状況に応じてツールを使いわけることが大切です。

(1) 「にほんごをまなぶ」資料の種類

①レベル

初級：はじめて日本語を学ぶ人のための資料

中級：文法、慣用句、擬態語、敬語、若者言葉、覚え方の工夫を含む資料

上級：長文を読むものや働く時に必要な表現を学ぶための資料

②技能別

1. 総合教材
2. 文字を学ぶための資料（ひらがな・カタカナ・漢字）
3. 文法を学ぶ資料
4. 読解力を高める資料（多読教材）
5. 聴解力を高める資料（リスニング教材）
6. 発音や会話、コミュニケーションを学ぶ資料
7. 作文のしかたを学ぶ資料
8. 辞書、単語を学ぶための資料
9. その他（落語言葉、若者言葉、方言等に関する資料）

③対象別

1. 子供向けの資料（学校で使う日本語を学べる教材）
2. 学生向けの資料（日本留学試験や、日本語能力試験の対策本等）
3. 働く世代向け資料（ビジネス日本語能力テスト対策本、介護や看護がテーマの教材等）

(2) ニーズの調査

①統計の分析

- ・「在留外国人統計」(http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html 法務省)で地域の外国人住民について調査する。
- ・どの言語の教材を受け入れるか迷った場合は、「市区町村別 国籍・地域別 在留外国人」で地域にどの言語を母語とする方が多く住んでいるかを調査する。
- ・どのような内容の教材を受け入れるか迷った場合には、「市区町村別 在留資格別 在留外国人」で地域にどのような職業や立場の外国人の方が多く住んでいるかを調査する。
- ・どのような年齢層を対象とした教材を受け入れるか迷った場合には、「都道府県別 年齢・男女別 在留外国人」で埼玉県に住む外国人の方の年齢を国籍別に確認する。
- ・「外国人住民の日本語学習に関する調査」(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/tabunkakyousei/nihongo.html> 埼玉県)では、県内在留外国人の日本語学習をめぐる状況が確認できる。

②当事者の声をきく

- ・在住外国人が集まる場所に出向き地域の外国人住民に直接話を聞く。(外国人の方が普段利用する商店やレストラン、外国人学校、日本語教室、外国人相談窓口、在住外国人の宗教施設等)
- ・外国人を支援している方に話を聞く。(日本語教室、国際交流団体、外国人相談窓口、学校)

【参考】

「埼玉県の日本語教室」

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/tabunkakyousei/nihongo.html> 埼玉県)

(3) 収集の方針を策定

- (1) で調査したニーズや自館の状況をもとに、収集の方針を策定する。

策定の際のポイント

1. どの言語の資料を重点的に購入するか。

その地域で在留外国人数の多い国の言語を重点的に購入する。しかし、マイノリティの言語についても配慮すること。

2. どのようなレベルや内容の資料を重点的に購入するか。

その地域で在留外国人数の多い職業や立場向けの資料を重点的に購入する。

例：就労ビザの人が多い場合は上級の資料やビジネス関連の日本語を学べる資料を揃える。

日本人の配偶者が多い場合は初級の総合教材やひらがな、カタカナを学ぶ資料を揃える。

3. どのような年齢層を対象とした資料を購入するか。

在住外国人数の多い年齢層に向けた資料を重点的に購入する。

例：子どもや子育て世代が多い場合は子ども向けの日本語学習教材を揃える。

※在住外国人数や情報ニーズは日々変化することから、収集の方針は状況に合わせ定期的に見直す必要がある。

(4) 選定ツール

①出版社や書店のウェブサイト

出版社や書店のウェブサイトは日本で発行された日本語学習教材の選定に役立つ。内容について詳細な記述がある場合も多く選定しやすい。また、日本で出版されているものなので、購入ができる可能性が高い。

「凡人社通信」(<https://www.bonjinsha.com/wp/bonjinshatsushin> 凡人社)

「にほんご書店そうがく社」(<http://www.sogakusha.co.jp/> そうがく社)

「日本語ブックス online」(<https://books-online.jp/> 日本語ブックス online)

「くろしお出版 本の情報」(<https://www.9640.jp/ourbooks/> くろしお出版)

「ひつじ書房 これから出る本の紹介」(<https://www.hituzi.co.jp/books/korekara.html> ひつじ書房)

「BOOK CLUB にほんご」(<https://bookclub.japantimes.co.jp/jp/> The Japan Times 出版)

「日本語」(<https://www.ask-books.com/category/product/japanese/> アスク出版)

「新刊／近刊一覧」(<https://www.3anet.co.jp/np/new-books.html> スリーエーネットワーク)

「日本語教育分野の刊行物」(<https://www.jpfe.go.jp/j/publish/japanese/index.html> 国際交流基金)

②書店が作成するリスト

外国語図書専門の書店が作成する選定リストは、外国で出版された日本語学習教材の選定に役立つ。外国で出版される日本語学習教材は、現地の人に馴染みやすくつくられているため、勉強しやすい教材である。選定リストは他の選定ツールでは見つけることのできない資料を見つけることができるうえに、リストに載っている資料は確実に購入できるというツール。日本語であらすじや要約を書いてくれる書店もあるが、タイトルと著者のみのリストの場合も多い。その場合、それぞれの本について Google 翻訳等を駆使し、各国の書店のウェブサイトなどから本の内容等を調べる必要がある。なお、外国で出版された教材は内容に誤りがあるものもあるので注意が必要。

③図書目録

出版社等が発行している冊子体の新刊案内等は日本で発行された日本語学習教材の選定に役立つ。また、内容について詳細な記述がある場合も多く選定しやすい。購入ができる可能性が高い。

例：タトル出版『日本文化関連英文図書目録 Books on Japan』

④他館の所蔵リスト

■国際交流基金日本語国際センター図書館（さいたま市浦和区）

- ・「テーマ別資料リスト」(https://www.jpf.go.jp/j/urawa/j_library/booklist/booklist.html 国際交流基金)
- ・「新聞記事を使った日本語教材」や「介護・看護のための日本語教材と参考図書」等、技能や対象別の資料リストが公開されている。

■埼玉県立熊谷図書館（熊谷市）

- ・「にほんごをまなぶ Books on Japanese as the second language」(<http://www.lib.pref.saitama.jp/collection/mcult/learnJapanese.html> 埼玉県立図書館)
- ・埼玉県立熊谷図書館で所蔵している「にほんごをまなぶ」資料のリストが言語別に公開されている。
- ・県立図書館の本は取り寄せて現物を見て選定することも可能。

■あーすぷらざ（神奈川県横浜市栄区）

- ・「【新着】外国人サポート資料」(https://earthplaza.opac.jp/opac/Book_list?lno=1 神奈川県立地球市民かながわプラザ)
- ・「日本で暮らす外国につながる方やその支援者」をターゲットとした「外国人サポート資料」の新刊の一覧が公開されている。

3. おすすめの資料

当館や、さいたま市にある国際交流基金日本語国際センターにおいて利用が多く、市町村立図書館でも揃えやすいおすすめの資料をご紹介します。

(1) 総合教材・日本語能力試験対策本

まずは、レベル別に総合教材を揃える

- ・「みんなの日本語」シリーズ（スリーエーネットワーク）：多言語あり
- ・「大地」シリーズ（スリーエーネットワーク）：多言語あり
- ・「まるごと：日本のことばと文化」シリーズ（三修社）：日本語のみ（海外版あり）
- ・「日本語総まとめ」シリーズ（アスク出版）：多言語あり

(2) 技能・対象別

次に読解や作文などの技能別の教材や、対象別の教材を揃える。

文字：「漢字マスター」シリーズ（三修社）

読解：「レベル別日本語多読ライブラリー」シリーズ（アスク出版）

「にほんご多読ボックス」シリーズ（大修館書店）

子供向け：「教室でつかうみんなのことば」シリーズ（文研出版）

働く世代向け：「しごとの日本語」シリーズ（アルク）

(3) 言語別

余裕があれば海外で流通している教材を揃える。

中国語：「新界标日本語」シリーズ（复旦大学出版社）や「中日交流标准日本語」シリーズ（人民教育出版社）

ベトナム語：「Tiếng nhật」シリーズ（Nhà xuất bản Giáo dục Việt Nam）

ポルトガル語：「ことばな」シリーズ（Secretaria da Educação do Estado de São Paulo）

(4) 予算がなくても揃えられる資料

- ・ KC よむよむ (<https://kansai.jpff.go.jp/clip/yomyom/index.html#sec3> 国際交流基金)
国際交流基金関西国際センター作成の入門・初級・初中級（A1・A2・A2/B1）レベルの日本語多読用図書。ウェブサイトからダウンロード可能。
- ・ はじめての文学シリーズ（文藝春秋）
日本の著名な作家の作品を子供向けに読みやすくしたシリーズ。子供向けの図書として所蔵している図書館も多いが、日本語学習者の多読教材としても有用である。
- ・ 日本語学習・生活ハンドブック
(https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/handbook/ 文化庁)
日本語学習の必要性、日本語学習や日常生活に関する情報、及び入門的な日本語の知識等を盛り込んだ冊子で、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、スペイン語及び英語の5か国語のそれぞれと日本語の対訳となっている。ウェブサイトからダウンロード可。
- ・ 「彩と武蔵の学習帳」 (<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/ayatomusashi.html> 埼玉県)
埼玉県教育委員会で平成15年に作成した日本語学習補助教材。小学生と中学生向け。家庭学習として保護者の方々と一緒に勉強することもできる。

※図書館での提供には許可がいる場合もあります。事前にご確認ください。

(6) 提供できる情報

【文化庁】

- ・ 「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト (<https://tsunagarujp.bunka.go.jp/>)
対応言語：英語・中国語(簡体字)・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語・インドネシア語・フィリピン語・ネパール語・クメール語

【国際交流基金関西国際センター】

- ・ みなと：日本語学習のオンラインコースのためのプラットフォーム (<https://minato-jf.jp/>)
対応言語：日本語・英語・スペイン語・中国語・インドネシア語・タイ語・ベトナム語
- ・ ひろがる もっといろんな日本と日本語：トピックから日本語と日本文化を学ぶ
(<https://hirogaru-nihongo.jp>)
対応言語：日本語・英語
- ・ まるごと＋：日本語コースのテキスト『まるごと』から日本語や日本文化を学ぶ
(<https://marugotoweb.jp>)
対応言語：日本語・英語・スペイン語

- ・ まるごとのことば：日本語の語彙や表現を学ぶサイト
(<https://words.marugotoweb.jp/>)
対応言語：英語・スペイン語・インドネシア語・タイ語・中国語・ベトナム語・フランス語・ポルトガル語
- ・ アニメ・マンガの日本語：アニメ・マンガでよく使われる日本語を楽しく学ぶ
(<http://www.anime-manga.jp>)
対応言語：日本語・英語・スペイン語・韓国/朝鮮語・中国語・フランス語
- ・ NIHONGO e な：日本語学習用のサイトやアプリをわかりやすく紹介するポータルサイト
(<https://nihongo-e-na.com>)
対応言語：日本語・英語
- ・ 日本語でケアナビ： 看護や介護の分野の必要な日本語を調べることができる
(<https://nihongodecarenavi.jp>)
対応言語：日本語・英語・インドネシア語

【NHK】

- ・ NHK やさしい日本語 (<https://www.nhk.or.jp/lesson/>)
文法編と会話編がある。
対応言語：アラビア語・ベンガル語・ビルマ語・中国語・英語・フランス語・ヒンディ語・インドネシア語・日本語(会話編のみ)・韓国/朝鮮語・ペルシャ語・ポルトガル語・ロシア語・スペイン語・スワヒリ語・タイ語・トルコ語(会話編のみ)・ウルドゥ語・ベトナム語

※「リンク集」(<http://www.jla.or.jp/committees/tabunka/tabid/812/Default.aspx> 日本図書館協会) より

4. 選定が終わったら

言葉がうまく伝えられない外国人利用者の方にとっては、資料が目につく場所がないとその資料を見つけるのが困難になってしまう場合があります。日本語学習教材を購入したらコーナーをつくり、見つけやすくしましょう。また、資料の存在をアピールするため、積極的に広報を行うことも大切です。

(1) コーナーの作り方

- ・ 見つけやすくするため、少ない量でもコーナーをつくる。
- ・ コーナーの名前は日本語を母語としていなくても分かりやすい名前とする。
- ・ 該当分類の見出し表示板等に「日本語学習資料(810.7)は「〇〇コーナー」にあります」と表示をつける。
- ・ コーナーが作れない場合には、見つけやすいよう数冊を面出しする。

※書架の上に小さなコーナーをつかった例(日本語学習教材紹介のコーナーではありません)
「日本を知る本」
(<https://www.lib.pref.saitama.jp/collection/mcult/multicultural.html#nihonwoshiru>
埼玉県立図書館)

【参考】

『多文化サービス入門』(日本図書館協会多文化サービス研究委員会編 日本図書館協会
2004)

p58-60「3.4 排架 ―わかりやすく―」

「多文化サービスQ&A」(<http://www.jla.or.jp/committees/tabunka/tabid/901/Default.aspx>
日本図書館協会)

「Q8. 外国語資料をどのように並べるのがよいですか。」

(2) 広報

小さなコーナーでもある程度量が揃ったら、使ってもらうための広報を行う。

例1. コーナーの案内を広報紙に掲載する。

日本人・外国籍の関係なく、少しでも認知度を広げるため。また、国際交流協会の情報誌に載せてもらい、多文化に興味のある人に情報を届ける。

例2. コーナーの案内チラシを作成する。

コーナーの案内チラシを作成し市の国際交流協会、日本語教室、学校等に配布する。
駅や近隣のスーパーなど掲示板がありそうなところにチラシ等を掲示してもらう。

例3. サービス対象者と直接話す。

市の国際交流協会が開催するイベント等に出向く。市の国際課、国際交流のボランティア団体と協力する。近隣の学校の親子、小中学校のALT、学校の先生に案内する。

例4. SNSやウェブサイトでコーナーを紹介する。

【参考】

『多文化サービス入門』(日本図書館協会多文化サービス研究委員会編 日本図書館協会
2004)

p64-65「3.6 広報・掲示 ―もっと売り込もう―」

(3) イベントの開催

資料を活用するため、展示や、イベントを行う。

【埼玉県立図書館の例】

・令和3年度 海外資料普及事業「「外国人」だから外国語?やさしい日本語のはじめかた」
2022年1月23日(日)13時30分から15時30分にオンライン(Zoom)で開催予定。

・令和3年度 第4回埼玉県立熊谷図書館資料展示「多文化共生とコミュニケーション
―言葉(ことば)や文化(ぶんか)が違(ちが)う人(ひと)と話(はな)す―」
2021年12月21日(火)~2022年2月20日(日)に埼玉県立熊谷図書館の2Fロビーで

開催予定。

8. まとめ

多文化サービスと聞くと難しく感じてしまうかもしれませんが、日本語学習教材の総合教材をいくつか揃えるだけでも大きな一歩になります。通常のサービスや資料を利用できない、あるいは利用しにくい文化的・言語的少数者が情報にアクセスできずに困ってしまわないよう自館の状況に合わせ、できることから始めることが大切です。

なお、埼玉県立図書館海外資料担当では、県内市町村立図書館等の多文化サービスの支援をミッションとしております。多文化サービスを実施するに当たって、困ったことや分からないことがあれば、お気軽にご相談ください。

埼玉県立熊谷図書館 海外資料担当
〒360-0014 埼玉県熊谷市箱田 5-6-1
電話：048-523-6291 FAX：048-523-6468
メール：lib-kaigai@pref.saitama.lg.jp